



Title	母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究 第11号 編集後記／奥付
Author(s)	
Citation	母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究. 2015, 11, p. 75-75
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/57938
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

編集後記

『母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究』11号の編集も終盤を迎え、なんとか無事に皆様のお手元に届ける見通しが立ち、安堵しております。この11号には、2014年度のMHB研究会研究大会の基調講演を記録した講演録1本、投稿論文1本、2014年度に実施された読書会の成果をまとめた書評、そして2014年度の本研究会、部会（SIG）の活動報告を掲載しました。

投稿論文に関しましては、今号では8本の投稿をいただきましたが、各論文のテーマの領域を専門とされる複数の査読者により、厳正なる審査が行われ、1本のみ採択となりました。多くの採択に至らなかったことは、編集委員として誠に残念でしたが、査読の過程においては、どの投稿論文に対しても、査読者の方々がたくさんの時間を割いて真摯に向き合ってくださいました。コメントもさらに優れた論文を書いていたきたいという想いに溢れるものばかりでした。採択された1本の論文は、この厳しい審査を通過して採択された貴重な論考です。MHB分野の研究、教育に対して非常に強い熱意を持ってご投稿くださった投稿者の方々、そして、その想いを受け止め、公正かつ真摯に、また厳しくも温かく査読に臨んでくださった査読者の方々に、この場を借りて感謝の意を表します。

2014年度大会の基調講演者でいらっしゃる内田伸子先生には、講演録の掲載をご快諾いただき、改めて御礼申し上げます。文化言語の多様な子どもの言語発達を取り扱う本研究会にとって非常に示唆に富むご講演の内容を、こうしてより多くの方々と共有させていただけることはとても幸せなことであると感じます。また、編集に際しては、同大会実行委員長の宮崎幸江先生をはじめ多くの方々に大変なご尽力をいただきましたこと、ご報告させていただくとともに御礼申し上げます。

書評に関しては、本分野において、キー概念として日本でもこれから注目されるであろう translanguaging について、読書会を企画された本研究会理事の方々が執筆の労をとってくださいました。はじめてこの概念に触れる読者にも、わかりやすく、なおかつ読みごたえのあるものになっていると思います。

末筆ながら、一緒に編集をご担当し、私の至らない部分を全て補い、支えてくださった小澤伊久美先生、ご多忙の中、2014年度のMHB研究会活動報告並びに部会（SIG）活動報告をまとめてくださった部会代表者の方々、有限会社津田印刷様、本誌の発刊にかかわる全ての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

MHB研究会理事 編集委員 櫻井千穂

母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究 第11号

2015年3月31日 発行◎

発行者：母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究会

MHB事務局：〒562-8558 大阪府箕面市栗生間谷東8-1-1

大阪大学大学院 言語文化研究科 日本語日本文化専攻

真嶋潤子 研究室内

Tel・Fax：072-730-5192

URL. <http://mhb.jp>（ウェブサイト）

印刷所：有限会社 津田印刷 〒606-0002 京都市左京区岩倉中大鷲町14